

## 東親会「下田温泉ミステリーツアー」紀行文

JR熱海駅乗換で、久しぶりの伊豆急線に乗車した。下田へ向かう車窓の眺めは、曇天な故、やや期待外れだったが海辺の景色は、どこか懐かしさもあり心を和ませる。

終点下車の伊豆急下田駅のホーム降り、その懐かしさの何かに気が付いた。伊豆急下田駅舎は、様変わりしたが「降りたホーム」だけは、五十数年前の中学臨海学校時のまま変わらぬホームであった。そうかそれで先ほど車窓で見た景色は、中学時代の級友達とワイワイ騒ぎながら見た風景なのだ。そして、それが私だけにとってのミステリーツアーの始まりだったとは、そのとき梅雨知らず。そのことは、後で述懐することにする。

集合場所の伊豆急下田駅に降りたら、吉岡さん、高橋さんが待っていた。待ち合わせ1時間半前、年寄りには時間に正確だ。ほどなくミステリーツアーのご案内人の佐々木さん、やや遅れて坂本さん、荒間さんと合流し、小雨の中、いざ下田ミステリーツアーへ出発。

さて、ここで下田ミステリーツアーについて概説すると、下田生まれの佐々木さんにより、ブラタモリならぬ「ブラささやん」で、幕末～明治維新で登場するペリー提督、ハリス領事、吉田松陰、坂本龍馬由緒ある史跡巡りの旅なのだ。しかも泊まる宿も佐々木亭という、この先、何が起こるか分からない不安感とワクワク感が同居したツアーなのだ。そして佐々木亭での深夜にわたる歴史談話もありとモリモリの「思いで深い旅」になりそうだ。

最初の訪問地である宝福寺向かう途中、佐々木さんの菩提寺（稲田寺）があるというので、そこから下田史跡巡りを始めた。ここでは本尊（平安時代作）と唐人お吉さんのご亭主のお墓等を拝謁・見学した。下田には、本寺含め歴史に由緒ある寺院が多いのには驚かされた。次に宝福寺に向かった。

宝福寺の入り口には、坂本龍馬の銅像があり、妙な違和感と共に興味もそそられる。宝福寺は、江戸時代の幕末には、日米和親条約時の本陣としての役目した寺であり、土佐藩を脱藩した坂本龍馬を勝海舟の取り持ちで、山内容堂と本寺で会い脱藩の許しを得たとされる寺でもある。

また、本寺院には、唐人の記念館もあり見学しました。幕末歴史において、人生を翻弄させられた悲運な人お吉の姿（今風の二重美人には驚いた）とその後の悲惨な人生を知り心が胸が痛む。歴史には、明暗がいつも背中合わせだ。帰り際、お吉さんのお墓に改めて合掌差せていただいた。

次に、日米下田条約締結場所である了仙寺へ向かった。

了仙寺に着いたころは、雨もやみ、寺院めぐりには、丁度よかった。了仙寺の伽藍や装飾などは、由緒ある歴史を感じられる寺院だ。

了仙寺を出てほどなくペリーロードに出会う。ペリーロードは、小さな川を挟む道と橋の組み合わせが、幕末歴史の名残りを感じられる良い風景だ。つい集合写真を撮りたくなり、品のよい綺麗なお姉さま（推定40代越え）にお頼みした。なんとその女性は、関西弁を話す大阪豊中市よりの旅行者だったので、我ら江坂出と言ったら、東の間の楽しい会話があった。（写真2）本日最後の訪問地でもある下田公園へ向かった。

ペリーロード出るあたりは小雨だったが、程なく大雨となり、雨男は誰だという他愛もない会話が唯一の慰めで、漸く下田公園の頂きに着いた。下田湾を望めるいい場所である。生憎の雨で景色は半減だが、幕末期に突如現れた 4 隻の黒船艦隊を見張るにはいい場所だとも思えた。

そろそろ、夕刻が近づいたので、下田史跡巡りをやめ、夕飯の買い出しにスーパー&魚屋へ買い出し行った。味にこだわる荒間さんが満足する美味しそうな金目鯛をゲットできたので、ミステリー宿の佐々木亭にタクシーで向かった。

佐々木亭は、下田の外浦海岸に隣接した小高いところにあった。

その外浦海岸どこかで見た風景なのだと思います、急いで佐々木亭に入った。

佐々木亭での夕食を兼ねた一献会、2 次会は、大いに盛り上がり、朝四時半まで続いた。

今般の一献会テーマは、明治維新を語る会となるはずであったが、明治維新を語りたい荒間さんが午後 7 時には、トドの様に寝てしまい、主役は、佐々木さんと吉岡さんに代わった。即ちネバーエンディングストーリーが始まったのだ。筆者も時折会話に参加したが 1 時半頃、睡魔に誘われるまま床に就いた。もちろん話の結末は知る余地もない。

翌朝、朝食後、明治維新の礎の一人である吉田松陰の史跡巡りの準備で、外浦海岸の駐車場にとめてある高橋さんのプリウスαまで荷物を運んだ。外浦海岸、やはり、どこかで見た景色ではないかと確信した。しかしながら、今は思い出に浸っている暇はない、急いで高橋さんの車で吉田松陰の密航場所である弁天島に向かった。

二日目の史跡巡りも雨と諦めつつも、弁天島に着いた頃は、雨もやみ、史跡巡りがより楽しくなった。当該弁天島には、黒船への密航場所や吉田松陰と金子重輔が祭られている「柿崎三島神社」巡った。玉泉寺・ハリス記念館に寄り、幕末、明治の歴史をゆるりと見学ができた。

ハリス記念館には、米国元大統領であったカーター氏も来館されていたのには、驚きだった。下田は、日米両国の礎の町なのだと思直した次第である。

下田港へ向かう途中、ファミレスでランチを食べながら、佐々木さんに外浦海岸の話をしたところ、東京都北区の保養所もあったと聞かされ、ハタと気づいた。そうかあの外浦海岸は、赤羽中学 1 年の臨海学校での海水浴場なのだ。ランチを食しながら、あの海岸風景での親友達や初恋の A さんの面影を追った。ポニーテールが似合う清楚で美人の A さん、どうしているのかなと曇天の空に問いかけてみた。そうか、今般の「下田ミステリーツアー」は、50 年前を回顧できた、私にとってのミステリーツアーそのものだと。

ランチ後、現代の黒船に乗り、下田湾をクルーズし、本旅を終えた。

佐々木さんには、雨の二日間、本当にお世話になりました。改めて御礼申し上げます。

もしかして、50 年前、佐々木少年とあの海水浴場で会っていたのかもしれない。

